

かわらばん

2026年7月23日に入会者研修が開催されました。

福岡県行政書士会館 3階大研修室で「令和8年度前期入会者研修」を開催しました。新入会員43名が参加申し込みをしており、行政書士としての基礎知識と心構えを学ぶとともに、本研修の目玉である座談会を通じて、先輩会員や理事との距離をぐっと縮める一日となりました。福岡県行政書士会は、この入会者研修を入り口に、基礎研修・応用研修へと続く「実務家養成のための研修体系」を整えています。

行政書士としての「ありがた」と、身を守る心構え

開会の挨拶の後、はじめに田村公隆会長が登壇。国民の権利利益の実現に資する行政書士としての使命と、その土台となる職業倫理の大切さ、第一歩を踏み出した新入会員へのエールを真つすぐに伝えました。

古城良副会長は、業務の考え方や使命、できること・できないことを基礎から解説。目指すべきは「適法かつ最適なサポート」だと語りました。

続く田中雄一副会長は「不当要求・暴力団追放」について解説。行政書士という立場上、気をつけるべき点を、リアルな事例も交えながらわかりやすく話し、参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。



田村公隆会長



古城良副会長



田中雄一副会長

6つの業務部の紹介と、「特定行政書士」という選択肢

公安運輸部（隠塚部長）、建設環境部（紫垣部長）、農林開発部（古田部長）、国際渉外部（宮武部長）、市民法務部（上津原部長）、事業法務部（原部長）の各部長が登壇し、扱う業務に加えて、今後準備している研修なども紹介。新入会員の皆さんにとっては、入会者研修を入り口に、各部の専門研修へと学びが続いていく道すじが見えたのではないのでしょうか。続いて亀井宏紀法規部長が「特定行政書士」について解説し、キャリアの選択肢の広がりを伝えました。



座談会「先輩と話してみよう 何でも聞いてみよう」

本研修最大の見どころが、約2時間にわたる座談会です。各部の部長に次々に相談できるため、遠慮が自然とほどけ、実務の進め方から開業初期のリアルな悩みまで、率直な言葉が飛び交いました。締めくくりの感想発表では、各班の代表が、先輩から受け取った学びとこれから実践したいことを、自分の言葉で発表しました。



《参加者からの発表》

「書類をただ作るのではなく、依頼者にとってコンサルタントになるくらいの気持ちで向き合いたい」
「意欲的に取り組む姿勢、学び続ける姿勢、そして何より誠実さが仕事につながると教わった」
「わからないことは必ず質問する。得意分野を決めて営業ツールを試す。行事に参加して横のつながりをつくる。この3つを実践します。」

多くの班に共通していたのは、「誠実に仕事へ向き合うこと」と「横のつながり・他士業との交流を大切にすること」。先輩の言葉を自分の第一歩に置き換えた前向きな声が次々と上がり、会場には和やかな一体感が広がりました。

修了証書を手にも、懇親会でさらに深まるつながり

研修の締めくくりに、田村会長から修了証書が手渡されました。佐々木勝朗研修部長の閉会挨拶のち、今回参加したメンバーにて懇親会を開催。会長・副会長・各部長、そして同期の仲間とテーブルを囲み、研修中には話さなかった話題で大いに盛り上がりました。福岡県行政書士会では今後も懇親会や研修を積極的に実施し、貴重なつながりを得られる機会をたくさん準備していきます！

